

# 子育て支援に関わる保育者からのソーシャル サポートと、育児肯定感・育児負担感との関連

森 下 順 子

# 子育て支援に関わる保育者からのソーシャルサポートと、 育児肯定感・育児負担感との関連

## Relationships of social support by nursery teacher of parenting support, affirmative feelings and caregiver burdens

森下 順子

Junko Morishita

### 要約

本研究の目的は、子育て支援に関わる保育者からのソーシャルサポートと、乳幼児をもつ母親の育児肯定感・育児負担感との関連について明らかにすることである。対象は、乳幼児をもつ母親に質問紙調査を実施し、366名の有効回答を得た。結果、①保育者からの「道具的サポート」を、高く受けていると感じている母親（以下、高群）の方が、高く受けていると感じていない母親（以下、低群）よりも「育児肯定感」が高い、②保育者からの「道具的サポート」は、「育児負担感」に高群・低群には差が認められない、③保育者からの「情緒的サポート」に関して、高群の方が低群より「育児肯定感」が高い、④保育者からの「情緒的サポート」に関して、低群の方が高群より「育児負担感」が高いことが明らかとなった。結果、子育て支援に関わる保育者は、母親が保育者からソーシャルサポートを受けているという意識が高まるような関わりや支援が必要であることが示唆された。

### はじめに

我が国は、1990年の合計特殊出生率「1.57ショック」を契機に、政府は子どもを生み育てやすい環境づくりに向けての様々な対策を実施している。しかし、合計特殊出生率は、2005年に1.26となり、その後は、横ばいもしくは微増傾向となっているが、2016年も1.44と依然として少子化の傾向は継続している<sup>1)</sup>。

2015年4月より施行された「子ども・子育て支援新制度」では、「保護者が子育てについての第1義的責任を有する」という認識の下に、幼児期の教育・保育、地域の子ども・子育て支援を総合的に推進している。また、同時期に、内閣府に「子ども・子育て本部」を発足させ、子どもを生み育てやすい環境づ

くりを目指し、対策が強化されている。

子育ては母親にとって幸せや喜び、やりがいを感じると同時に、不安や悩み、ストレスの否定的感情も伴う<sup>2)</sup>。母親が不安やストレスを感じたとき、様々な方法でストレスに対処しようとする<sup>3)</sup>が、対処できなかった時に育児負担を感じ、場合によっては児童虐待につながっていく可能性もある<sup>4)</sup>。2017年度の児童相談所での児童虐待対応件数は、133,778件(速報値)で過去最多という現状である<sup>5)</sup>。

そこで、地域における子育て支援の拠点として保育現場に期待が寄せられている。2018年に施行された「保育所保育指針」には、「第4章子育て支援」の項目があげられ、保育所における子育て支援に関する基本的事項、保育所を利用している保護者に対する子育て支援、地域の保護者等に対する子育て支援が示されている<sup>6)</sup>。つまり、保育所を含む地域全体の

子育て支援の拠点であることが期待されている。拠点が地域に存在することは望ましいが、それにくわえて、保育者の子育て支援に関する専門性の向上が求められることとなった。保育者は、子どもへの保育、及び保護者に対する援助や支援を行う専門職であり、その専門性の向上のための研修の機会を確保しなければならないとされている。近年、子どもや子育てを取り巻く環境が変化し、多様化・複雑化されている。そこで、2017年度より、各都道府県又は都道府県知事の指定した研修実施機関が実施主体となり、「保育士等キャリアアップ研修」が実施されている。その研修内容の分野に「保護者支援・子育て支援」がある。ねらいは、保護者支援・子育て支援に関する理解を深め、適切な支援を行うことができる力を養い、他の保育士等に保護者支援・子育て支援に関する適切な助言及び指導ができるよう、実践的な能力を身に付けるとされている<sup>7)</sup>。研修時間は、1分野15時間以上課せられており、保育者は研修に参加し、専門性の向上に努力を重ねている。このように、政府や地域から、保育者に期待がよせられているのは明らかである。今後、保育者からどのような支援を受けると効果があるのかなどの、保護者支援に関する検討が、ますます必要となってくると思われる。保育者は、保護者を取り巻く周囲の環境のひとりとしてソーシャルサポートのサポート源である。しかし、先行研究では、夫を含む家族からのサポートについての研究はある<sup>8,9)</sup>が、保育者が保護者におこなうサポートについての研究は数少ない。

本研究では、子育て支援に関わる「保育者」に着目し、保育者からのソーシャルサポートと、育児肯定感・育児負担感の関連に焦点をあて検討する。ソーシャルサポートについては多様な種類が考えられているが、大まかには道具的サポートと情緒的サポートの2種類に分類できることは、おおむねどの研究者にも共通する考えとなっていることがあげられる<sup>10)</sup>。保育者から、どのようなサポートを受けると、育児肯定感を高めたり、育児負担感を低くするのかについて検討することにより、保護者に対して、適切な助言や支援が可能となると考える。具体的には、①乳幼児をもつ母親が、保育者から受ける「道具的サポート」について高群と低群は、「育児肯定感」に差があるか、②乳幼児をもつ母親が、保育者から受ける「道具的サポート」について高群と低群は、「育児負担感」に差があるか、③乳幼児をもつ母親が、保育者から受ける「情緒的サポート」について高群と低群は、「育児肯定感」について差があるか、④乳幼児をもつ母親が、保育者から受ける「情緒的サポート」

について低群と高群は、「育児負担感」について差があるかの4点について検討する。

なお、本研究において育児負担感とは、育児に対するネガティブな認知評価のことと定義づける。

## 方法

### 1. 調査概要

調査は、A県内の3市町村における認定子ども園1園、保育園3園、幼稚園2園の乳幼児(0~6歳)をもつ母親を対象として実施された。園ごとに園長または学級担任が母親に質問紙を配布し、母親が回答した後、園に提出したものを著者が回収した。質問紙には、回答は無記名で統計的に処理されること、個人情報の漏洩はないことを明記した。質問紙は、2016年5~6月に配布した。結果、366名(回収率85.3%)の有効回答を得た。回答者の平均年齢は32.4歳、子どもの人数の平均は2.1人であった。家族形態は、核家族84.6%、拡大家族12.4%であった。母親の職業は、専業主婦17.6%、兼業主婦76.9%、育児休暇中は0.03%であった。

### 2. 調査項目

#### 1) ソーシャルサポート

ソーシャルサポートは、小牧ら<sup>11,12)</sup>の道具的サポート、情緒的サポートを参考にした。

道具的サポートについては、「保育者は、わたしの子育ての苦労に対して助言してくれる」「保育者は、わたしに子育ての方法を教えてくれる」「保育者は、わたしの子育てに役立つアドバイスをしてくれない(逆転項目)」「保育者は、わたしが子育ての新たな知識を得ることに力を貸してくれる」の4項目である。

情緒的サポートは、「保育者は、わたしが子育てで落ち込んでいるとき、元気づけてくれる」「保育者は、わたしが子育てで悩んでいるとき、相談にのってくれる」「保育者は、わたしの子育てを「あなたのやり方でよい」といつてくれる」「保育者は、わたしが子育てで気が動転しているとき、同情を示してくれる」の4項目を設定した。

## 2) 育児負担感

「育児負担感」は、中嶋ら<sup>13,14)</sup>の育児負担感尺度のなかの育児への否定感情を参考にした。具体的には、「子育てによって自分の健康が損なわれる気がする」「子育てそのものにしんどさを感じる」「子育てに何となく自信がもてない」「子育てに疲れて育児を放棄したくなる」の4項目である。

## 3) 育児肯定感

「育児肯定感」は、荒牧<sup>15)</sup>の育児感情尺度のうち肯定的感情を参考にした。具体的には、「子どもを育てるのは楽しいと思う」「子どもを育てることは、有意義ですばらしいことだと思う」「子どもの成長が楽しみだと感じる」「子どもを育てることによって、自分も成長していると感じる」の4項目である。

以上の項目に関して、5件法によるリッカート尺度(1:まったくあてはまらない～5:よくあてはまる)で回答してもらった。

## 3. 分析方法

調査データの解析にあたっては、SPSS ver.21 を用いた。ソーシャルサポートとして道具的サポート4項目、情緒的サポート4項目、育児肯定感4項目、育児負担感4項目に関して、それぞれの項目を構成する尺度の信頼性係数(Cronbach の  $\alpha$ )を求め、t検定を行った。

# 結 果

## 1. 信頼性係数

信頼性係数を調べると、保育者からの道具的サポート  $\alpha = .86$ 、保育者からの情緒的サポート  $\alpha = .88$ 、育児肯定感  $\alpha = .78$ 、育児負担感  $\alpha = .79$  であった。信頼係数の値がいずれも.70以上であり、尺度の内的一貫性が確認された<sup>16)</sup>。

## 2. t検定

保育者からのソーシャルサポートとして、「道具的サポート」の高群と低群の2群、「情緒的サポート」の高群と低群の2群に分けて、育児肯定感、育児負担感の関連についてt検定を用い分析をおこなった。

## 1) 保育者から受ける道具的サポートと育児肯定感の関連

母親が、保育者から「道具的サポート」を受けていると感じている高群の得点の平均は4.51点、低群の得点の平均4.32点であった。道具的サポートを受けていると感じている高群の方が、低群より「育児肯定感」が有意に高いことが明らかとなった(表1)。

## 2) 保育者から受ける道具的サポートと育児負担感の関連

母親が、保育者から「道具的サポート」を受けていると感じている高群の得点の平均2.51点と、低群の得点の平均2.65点を比較すると、「育児負担感」との間に差がないことが明らかとなった(表1)。

## 3) 保育者から受ける情緒的サポートと育児肯定感の関連

母親が、保育者から「情緒的サポート」を受けていると感じている高群の得点の平均は4.51点、低群の得点の平均は4.36点であった。情緒的サポートを受けていると感じている高群の方が、低群より「育児肯定感」が、おおむね有意に高かった(表2)。

## 4) 保育者から受ける情緒的サポートと育児負担感の関連

母親が、保育者から「情緒的サポート」を受けていると感じている低群の得点の平均は2.68点、高群の得点の平均は2.47点であった。情緒的サポートを受けていると感じている低群の方が、高群より「育児負担感」が、おおむね有意に高かった(表2)。

表1. 保育者からの道具的サポートと育児肯定感・育児負担感の関連

| 項目    | 道具的サポート | N(人) | 平均値±SD   |
|-------|---------|------|----------|
| 育児肯定感 | 高群      | 193  | 4.51±.51 |
|       | 低群      | 162  | 4.32±.62 |
| 育児負担感 | 高群      | 194  | 2.51±.85 |
|       | 低群      | 161  | 2.65±.85 |

t検定 \* $p < .05$ , \*\* $p < .01$

表 2. 保育者からの情緒的サポートと育児肯定感・育児負担感の関連

| 項目    | 情緒的サポート | N(人) | 平均値±SD   |
|-------|---------|------|----------|
| 育児肯定感 | 高群      | 162  | 4.51±.55 |
|       | 低群      | 193  | 4.36±.58 |
| 育児負担感 | 高群      | 164  | 2.47±.88 |
|       | 低群      | 192  | 2.68±.83 |

t 検定 \*p<.05, \*\*p<.01

## 考 察

本研究から、乳幼児をもつ母親は、①保育者からの道具的サポートを受けていると高く感じるほど、育児肯定感が高い、②保育者から道具的サポートを受けているかどうかという感じ方の差は、育児負担感には関連しない、③保育者からの情緒的サポートを受けていると高く感じるほど、おおむね育児肯定感が高い、④保育者からの情緒的サポートを受けていると感じないほど、おおむね育児負担感が高いことが、明らかとなった。結果に基づき4点について考察する。

第1に、保育者からの道具的サポートを受けていると高く感じるほど、育児肯定感が高いことである。これまでの研究では、家族からのサポートが育児肯定感を高めること<sup>17,18)</sup>や、育児仲間からの道具的サポートが育児肯定感を高めること<sup>19)</sup>は明らかにされてきた。しかし、核家族化の進行や孤立した子育てをせざるを得ない社会の現状があり、家族からのサポートが困難な場合がみうけられる。そこで、同じ年ごろの子どもをもつ育児仲間からのサポートに注目し、育児仲間からの道具的サポートが育児肯定感を高め、それにより育児負担感が軽減されることが明らかとなり、子育て仲間をえるきっかけが必要であることが明らかになった<sup>19)</sup>。その育児仲間ができるきっかけは、保育現場や地域の子育て支援拠点である。そこでは、たいいてい専門性のある保育者が常駐し親子をサポートしている。その具体的な方法として、子育てに関する助言や育児方法、知識といった「道具的サポート」があげられる。本結果より、母親自身が保育者から道具的サポートを受けているという安心感が、育児肯定感を高めるきっかけになるということである。つまり、保育者による道具的サポートの重要性が示唆された

ことになる。キャリアアップ研修などの保育者のスキルアップの学びの中に、道具的サポートについて専門性が深まるような内容を取り入れていくことが重要といえる。そのうえで、保育者は親子の関わり方などを観察し、母親への育児に対する悩みを読み取りながら、丁寧に道具的サポートを行っていくことが望ましいといえよう。

第2に、保育者から道具的サポートを受けているかどうかという感じ方の差は、育児負担感には関係しないことである。つまり、道具的サポートを受けたからといって、育児負担感が高くなったり軽減はされないということである。育児負担感の高い母親に対してのサポートは、道具的サポート以外の関わりでサポートしていく必要があるといえる。

第3に、保育者からの情緒的サポートを受けていると高く感じるほど、おおむね育児肯定感が高いことである。落ち込んでいるときに元気づけたり、相談ののってくれたり、同情してくれる、また「あなたのやり方でよい」といつてくれる情緒的サポートを受けていると感じている母親の方が、育児肯定感が高いということである。つまり、保育者の受容・共感的態度が、母親の育児肯定感を高めることにもつながる可能性がある。よって、保育者の保育マインドの専門性の向上がますます重要となってくるといえる。

第4に、保育者からの情緒的サポートを受けていると感じないほど、おおむね育児負担感が高いことである。つまり、情緒的サポートを受けていると感じ方が低い母親は、育児負担感が高いということである。反対に、情緒的サポートを受けていると感じ方が高い母親は、育児負担感が低いということでもある。子育ては、子どもを愛おしく可愛い、子育てにやりがいを感じる育児肯定感と、子育てで悩み疲れたといった育児負担感、誰しもが併せ持つものである。保育者の専門性として、受容・共感的な態度で情緒面をサポートできる専門性も望まれるといえよう。

今後、子育て支援のさらなる充実と、子育て支援に関わる保育者の専門性の向上は、益々期待される、必要とされる社会になるであろう。保育者を目指す学生や、保育者のキャリアアップのための研修等の内容の充実が、未来の子どもたちの豊かな育ちにつながることを意識しながら、我々の課題として検討していく必要があると考える。



## 謝 辞

本研究を実施するにあたり、6 園の保育関係者の皆様に調査実施に関してご快諾いただきました。乳幼児をもつお母様には、調査にご協力いただきました。本研究に関して、ご協力いただきました皆様に心から御礼申し上げます。

## 参考文献

- 1)厚生労働省(2018)平成 29 年版厚生労働白書 第 2 部現下の政府課題への対応 第 1 章子どもを産み育てやすい環境づくり, 182-203.
- 2)荒牧美佐子(2005)育児への否定的・肯定的感情とソーシャルサポートとの関連—ひとり親・ふたり親との関連から—, 小児保健研究, 64(6), 737-744.
- 3)海老原亜弥・秦野悦子(2004)保育園・幼稚園児を育てる母親の育児肯定感—ストレス、コーピング、ソーシャルサポートの関係—, 小児保健研究, 63(6), 660-666.
- 4)藤田大輔・金岡緑(2002)乳幼児を持つ母親の精神的健康度に及ぼすソーシャルサポートの影響, 日本公衆衛生雑誌, 49(4), 305-313.
- 5)厚生労働省(2018)  
[www.mhlw.go.jp/content/11901000/000348313.pdf](http://www.mhlw.go.jp/content/11901000/000348313.pdf)  
2019.1.7 検索.
- 6)厚生労働省(2017)保育所保育指針(平成 29 年度告示), 厚生労働省告示第 117 号.
- 7)厚生労働省(2017)保育士等キャリアアップ研修の実施について, 雇児保発 0401 第1号.
- 8)海老原亜弥・秦野悦子(2004)保育園・幼稚園児を育てる母親の育児負担感—ストレス、コーピング、ソーシャルサポートの関係—, 小児保健研究, 63(6), 660-666.
- 9)山口咲奈枝・佐藤幸子・遠藤由美子(2014)未就園児をもつ父親の育児行動と母親の育児負担感との関連, 母性衛生, 54(4), 495-503.
- 10)浦光博(1992)支え合う人と人:ソーシャル・サポートと社会心理学, サイエンス社.
- 11)小牧一祐・田中国夫(1993)職場におけるソーシャルサポートの効果, 関西学院大学社会学部紀要, 67, 57-67.
- 12)小牧一祐(1994)職務ストレスとメンタルヘルスへのソーシャルサポートの効果, 健康心理学研究, 7(2), 2-10.
- 13)中嶋和夫・斎藤友介・岡田節子(1999)母親の育児負担感に関する尺度化, 厚生指標.
- 14)中嶋和夫・種子田綾(2004)障害児の母親の育児負担感と精神医学的障害の関係, 岡山県立大学保健福祉学部紀要, 11(1), 31-36.
- 15)荒牧美佐子(2008)幼稚園への入学前後における母親の育児感情の変化, 家庭教育研究所紀要, 30, 139-149.
- 16)小塩真司(2004)SPSS と Amos による心理調査データ分析—因子分析・共分散構造分析—, 東京図書.
- 17)荒牧美佐子・武藤隆(2008)育児への負担感・不安感・肯定感とその関連性への違い—未就園児を持つ母親を対象に—, 発達心理学研究, 19(2), 87-97.
- 18)森下順子・厨子健一(2016)乳幼児をもつ母親のソーシャルサポートと育児負担感, 育児肯定感との関係, 和歌山信愛女子短期大学紀要, 56, 23-28.
- 19)森下順子・厨子健一(2018)乳幼児をもつ母親の育児仲間からのソーシャルサポートと育児肯定感・育児負担感との関連性, 小児保健研究, 77(5), 476-482.